

NPO 法人映画保存協会 年報 2018

April 2018 – March 2019

ANNUAL REPORT 2018

映画保存協会は映画フィルムを文化財として保存することを目的とする NPO 法人です



Film Preservation Society

目次

ご挨拶／寄付への御礼	．．．．．	2
2018 年度の活動カレンダー／会員名簿	．．．．．	3
プロジェクト	．．．．．	4
広報	．．．．．	5
収支報告	．．．．．	6

NPO 法人映画保存協会 年報 2018

制作発行：NPO 法人映画保存協会 Film Preservation Society, Tokyo

発行日：2019 年 6 月 1 日 (PDF 全 7 頁)

ご挨拶

盛夏恒例の「映画の復元と保存に関するワークショップ」は2016・2017年度の東京開催を経て、2018年度（第13回）は京都開催に戻りました。映画保存やフィルムアーカイブに関連する催事が各所で増えたとはいえ、やはり年に一度この領域に興味を持つ100名超の人々が全国から一所に集い、最新の情報を共有し、意見交換できる時間と場所は貴重です。継続開催の有無につきましても複数の皆様からお問い合わせいただいております。今後の展開にもぜひご注目ください。

ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）は、この領域において重要な意味を持つ国際的な記念日です。この記念日を日本の映画ファンのみならず一般の人々にも知っていただきたく、小会では過去に手ぬぐいやカレンダー等のグッズを制作しましたが、2018年度はデニム地のトートバッグを配布し、ご好評いただきました。微力ながら今後も広報活動に努めて参ります。

なお、2018年度は以下の通り計340,389円もの寄付を賜りました。会員一同、心より感謝いたします。また小会の年報はこれまで主に「Puboo」のサービスを利用して発行しておりましたが、2019年度秋の同サービス終了にともない、PDF公開に切り替えることとなりました。過去の年報につきましては、映画保存資料室に保管しておりますので引き続きご利用ください。

映画保存協会 理事会（天野園子、石原香絵、日比野郷枝）

寄付への御礼

以下の皆様にご寄付をいただきました。記してここに感謝いたします。

古書ほうろう 様／東京都

片岡 一郎 様／東京都／活動写真弁士

柿崎シネマ倶楽部 様／新潟県

第13回「映画の復元と保存に関するワークショップ」実行委員会 様／京都府

田辺 弘樹 様／東京都／[HMD 調布]

匿名希望 様／兵庫県

島 啓一 様／東京都／[根津映画倶楽部]

田中 重幸 様／東京都／[KADOKAWA]

柳下 美恵 様／東京都／サイレント映画ピアニスト

澤登 翠 様／東京都／活動写真弁士

山口 博哉 様／大阪府

第12回「映画の復元と保存に関するワークショップ」実行委員会 様／東京都

記録映画保存センター 様／東京都

神谷 修治 様／東京都

2018 年度の活動カレンダー

- 5月：「年報 2017」発行
6月：「第12回映画の復元と保存に関するワークショップ」より、無声映画セッションの文字起こし公開／東京都内 視聴覚ライブラリー調査（第8回）／災害対策部 防災訓練
7月：国内の公共フィルムアーカイブ調査（第5回）
8月：〈オリンピック・プロジェクト〉」を公開／「かきざき映画祭 2018」参加／「第13回映画の復元と保存に関するワークショップ」開催（京都府京都文化博物館）
9月：「Japanese Small Gauge/Amateur Footage Search」を公開／インタビュー「サンチャイさんに聞く タイの映画保存とアート・シネマの現在」を掲載
10月：第16回〈ホームムービーの日〉／ユネスコ世界視聴覚遺産の日記念品（トートバッグ）制作・配布
12月：韓国映像資料院の企画展示「Film Projection: In Search of Lost Time」に協力
1月：全国視聴覚ライブラリー調査（第8回）
2月：「光影流年—中国映画保存報告 第13-15回」公開
3月：「ホームムービーの日 今年の1本」Vimeo 公開



2018 年度の会員名簿

理事会 4名

天野 園子（毎日新聞社／東京都）
石原 香絵（東京都）
日比野 郷枝（愛知県）
はた あきお（映画史家／神奈川県）

谷根千工房

YHI（ヤマナシ・ヘムスロイド・インターナショナル）

法人会員 10団体

株式会社足柄製作所（フィルム缶製造）
株式会社東京光音
共進倉庫株式会社
一般社団法人記録映画保存センター
近未来考古学研究所
ギンレイシネマックス／飯田橋ギンレイホール
コガタ社
株式会社東京現像所

正会員 9名（理事会4名を除く）

児玉 優子（研究者）
鈴木 伸和 [東京光音]
竹森 朝子 [HMD 弘前]
匿名希望1（研究者）
北村 昌子 [美術企画]
匿名希望2（研究者）
三浦 和己 [国立映画アーカイブ]
宮野 起 [Audio Mechanics]
山下 裕喜（研究者）

プロジェクト

ホームムービーの日 (Home Movie Day, HMD)

第16回HMD当日、小会は新潟県の柿崎会場に参加し、遅れて11月に弘前会場を主催した。2017年11月に公表された「マスターデータ」によると、HMDは34カ国325都市で984回開催されていたことから、2018年で1000回を超えたと思われる。日本でも55名の世話人により、19都道府県で189回開催されたことになる。

イタリアにあるサルデーニャ島カリアリのチネテカ・サルダは、世界のHMD会場から集めたフッテージを使って約10分の作品を制作している。2015年の第1弾『BINARI 線路』(2016)に続き、2018年度に完成した第2弾『POSTCARDS ポストカード (絵葉書)』は世界各地のHMD冒頭で上映され、後日、一般にも公開された。日本からは、東映撮影所内で開催されたHMD大泉経由で撮影監督・福本淳氏の幼少時のフィルムを提供し、世界中を旅した福本家のコレクションより、パリの軍事パレード(1967年)のフッテージが採用された。(担当:竹森)

災害対策部

西日本豪雨災害に際してメルマガFPS7月号(Vol.60)に経過報告を投稿した。10月9日に一橋大学一橋講堂で開催された情報保存研究会(JHK)に参加し、「自然災害により被災した動的映像の災害対策」というテーマで発表を行った。(担当:鈴木)

翻訳

国立映画アーカイブ(NFAJ)の「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」の委託事業として2016年に国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)から発行された『FIAF 動的映像目録マニュアル』の翻訳を継続して行った。(担当:兎玉)

映画保存資料室/勉強会

2018年度は人員不足のため休止した。

その他

「映画の里親」作品が以下の場でDVD上映の機会を得た。

映画の里親第一回作品『モダン怪談 100,000,000円 [松竹グラフ版]』

【7月17日(月)】秋田の名匠・辻吉郎監督作品『槍供養』公開90年記念上映/御成座

【7月16日(日)】同上/上小阿仁(かみこあに)村生涯学習センター

映画の里親第二回作品『海浜の女王 [松竹グラフ版]』

【8月19日(土)】柳下美恵のピアノ DE シネマ ～レトロ高田篇～/旧師団長官舎

【2月3日(金)】柳下美恵のピアノ de シネマ 日米女装対決!/UPLINK

また、2018年度は主に次の団体に参加した。東南アジア太平洋地域視聴覚アーカイブ連合 SEAPAVAA 団体賛助会員、歴史資料ネットワーク ニュースレター講読会員、大阪産業労働資料館(エル・ライブラリー)支援会員、NPO法人独立映画鍋 団体会員、映画館学会 会員

広報

月刊メールマガジン「メルマガFPS」

「まぐまぐ」と「メルマ！」のサービスを利用し、毎月末にメールマガジンを配信している。2018年度は第151号から161号まで計11号を発行し、購読者数は計604名（2017年度）から676名へと増加した。連載記事は以下の通り。「災害対策部」経過報告、光影流年—中国映画保存報告、HMD通信、映画保存見聞録、映画よ音楽と共にあれ 無声映画伴奏者、世界を行く、映画保存関連のイベントに参加して、シリーズ小型映画研究 小型映画の過去と現在

メールリングリスト

一般向けメールリングリストを2008年9月に開設した（2018年3月現在 参加者135名）

ツイッター Twitter (@filmpres)

2011年10月に開設したアカウントのフォロワー数は4,275名（2017年度）から4,485名に増加した。HMD広報用アカウント @hmd_japan のフォロワー数は2018年3月現在2,600名。

フリッカー Flickr

主に会員が撮影した計7,000点以上の画像を共有している（一部アクセス制限あり）。

フェイスブック Facebook (filmpres)

ウェブサイトの英語版を代替している（2017年度792 → 2018年度870 いいね!）。

無声映画上映カレンダー <http://silentfilm.g.hatena.ne.jp/filmpres/>

2014年1月以来、東京都内のイベントを中心に無声映画の上映情報を掲載している。

報道・掲載されました

【読売新聞大阪版・4月15日（日）】大阪市総合生涯学習センターの事例を紹介するとともに、自治体の所蔵する16mmフィルムの活用の可能性について取り上げた「16ミリ映画 温かみ人気…「今」感じる作品上映」という記事に会員のコメントが掲載された。

【NHK BS・5月14日（月）】TOKYO ディープという番組の千駄木特集「山の手と下町 ふたつの記憶が残る街 千駄木」で文京映像史料館がデジタル化した作品が使用された。

【キネマ旬報 2019年1月上旬特別号 No.1798・12月20日（木）】浦崎浩寶氏の連載「香華抄 ～映画人を偲んで」（pp.128-129）の中で映画の里親第一回作品『モダン怪談 100,000,000円』が紹介され、関連画像を提供した。

収支報告

収入の部

〔入会金・会費収入〕 221,000 円

〔委託金収入〕 1,283,876 円

〔寄付金収入〕 506,619 円（内、一般からの寄付金 340,389 円）

収入合計 2,011,495 円

支出の部

〔事業費〕 1,152,536 円

- 委託事業費 897,978 円（復元ワークショップ、翻訳等）
- 月刊メルマガ FPS 45,328 円
- ホームムービーの日 178,666 円
- ユネスコ世界視聴覚遺産の日 30,564 円

〔管理費〕 858,959 円

- 家賃 105,000 円
- 旅費交通費 28,900 円
- 調査研究・資料費 71,276 円
- 運搬費 79,529 円（寄贈仲介等）
- 会費・寄付金支出 129,134 円
- 消耗品費 77,062 円
- 通信費／ウェブ管理費 195,642 円
- 広告宣伝費 25,061 円
- 予備費 144,223 円
- 雑費 3,132 円（印紙代、振込手数料等）

支出合計 2,011,495 円

収支差額 0 円